

## 答 申

### 1. はじめに

京丹後市には、現在、小学校が31校、中学校が9校ある。昨年7月以来、京丹後市学校再配置検討委員会（以下、「委員会」と称する）では、児童生徒数の今後の動向や、小学校・中学校の教育内容や教育活動をめぐる諸問題、さらには立地上の環境等の諸条件や耐震基準等から見た施設設備等の諸課題を踏まえて検討を行った。また、各町域毎に設置した検討分科会では、子どもの健やかな成長にとって望ましい教育環境を、保護者の視点を重視し検討を重ね、平成20年5月に最終報告をするに至った。

委員会ではその報告を尊重しながら、あらかじめ教育委員会事務局から提示された基本的な観点や方向性を指針としつつ、全市的な視野に立ち、さらに様々な教育的観点から、概ね今後10年間における本市域の小学校及び中学校の再配置計画について検討を行った。

### 2. 検討経過

委員会の検討経過は以下のとおりである。

会議名/開催日時	主な内容
第1回委員会 平成19年7月12日	・委員長及び副委員長の選任 ・検討委員会の進め方について
第2回委員会 平成19年9月20日	・各分科会の検討状況について
第3回委員会 平成20年2月15日	・国の動きについて ・各町分科会の中間報告 ・中間報告を踏まえた意見交換
第4回委員会 平成20年5月30日	・中間報告を踏まえた意見交換
第5回委員会 平成20年6月26日	・各町分科会の最終報告 ・最終報告を踏まえた意見交換
第6回委員会 平成20年7月29日	・中学校の再配置の検討
第7回委員会 平成20年8月26日	・小学校の再配置の検討 (峰山町・大宮町・網野町・丹後町)
第8回委員会 平成20年9月30日	・小学校の再配置の検討 (弥栄町・久美浜町) ・小・中学校の再配置の検討(全体)
第9回委員会 平成20年10月27日	・答申(案)の検討
第10回委員会 平成20年11月21日	・答申(案)の検討及び答申

### 3. 小学校の再配置についての議論

各分科会から提出された最終報告をめぐり、それぞれの町域の小学校再配置について交わされた主だった意見、並びに特徴的な論議は以下のとおりである。なお、10回にわたる委員会はずべて公開で行ったほか、各委員等の発言はずべて詳細に本市のホームページに掲載されている。

(峰山町)

峰山町への意見としては、「分科会としては新築で1校に統合するというような結論を出しているが、教育委員会としては新築でなく、既存の建物を利用してということであったと思うが、この問題についてどう考えるのか」「既存の校舎を使って統合するなら、一番適している場所は吉原小学校と思えるが、1校に統合するのは難しい」「子どもたちの教育環境を整え、地域みんなで支えながら、特色ある、地域に開かれた学校を新築で1校にまとめる方向で、平成23年を目標に進めてほしい」「既存の体育施設でも修理できないのに、新築校舎が建つのか、現実を踏まえて教育のあり方というものも考えながら再配置の検討をするべき」など。

(大宮町)

大宮町への意見としては、「大宮は児童数も他の地域に比べてあまり減らないので、現状のままでいい」「どうしても既存の施設を使って再配置するなら大宮第二、第三小学校の再配置を考える」「再配置をするなら子供たちの足の確保が最重要になる」「大宮でも昭和52年当時合併した時、児童の数がこれだけ減るとは思わなかった。現実をしっかりと頭に入れ、今後の検討を」「再配置で地域が広くなり、子どもを見守る体制を京丹後市全体としてしっかりとつくりたいといけない」「大宮第三小学校は、人数で見ると再編の対象になるかも知れないが、人数だけで割り切ることはやめていただきたい」など。

(網野町)

網野町への意見としては、「現状の小学校は維持する」「既存の校舎でいったい何人収容できるのか、人数の減少に併せて段階的に再配置してはどうか」「橘地区は平成25年でも130人くらい児童がいるので、他の小学校へ送迎するのは難しい」「複式学級の問題もあるので、そのような状態が出てきたら段階的に再配置をしてはどうか」「子どもにとって必要なら、安全、安心を守るため新しく学校を建てなければいけないと、この検討委員会ではどんどん言ったらいいのではないか」「もう少し子どもを産み育てる文化も育てていただけたら」「今の子どもは歩くことが減っている、子どもが歩いて通学することは大切」「落ち着きのない子、人の目を見て話が聞けない子が増えており、鉄筋より木造建築のほうが落ち着いた子どもが育つという話があるので、新築の場合、木造の校舎を希望する」「いじめや不登校のない学校づくりを」など。

(丹後町)

丹後町への意見としては、「竹野小学校は早急に合併させてほしい」「竹野小学校以外の小学校については現状維持で残して欲しい」「宇川の方から間人の方へ来るのは遠すぎる」「人数の関係で見ると、平成二十五年くらいになれば間人小学校

に丹後町の児童が全員入ることができる」「若者は峰山の方に住むようになってるので、人口の減少と共に段階的に進める時が来るのではないか」「住宅の問題等、都市計画の中で別の角度からも学校の配置を考えることが必要だ」「間人の街中でも限界集落になってきている」「宇川の自然環境等の良さをもっとアピールして、京丹後市にはこんなに素晴らしい教育環境や生活環境があるということで都会からの定住者を増やせないか」「学校が存続するのは不便な所にとっては重要なことである」「数の議論をいつまでもしていないで、子どもたちの教育はどうあるべきかという議論に早くしていかなければいけないのではないか」「丹後町は峠があるので人数だけの判断は無理」など。

(弥栄町)

弥栄町への意見としては、「学力調査の結果で、東北地方の学校は結果が良かったようだが、それはクラス編成の仕方が違うということで、ある程度の人数がないと東北地方のような取り組みもできない」「耐震・増築等について教育委員会として方法や費用面等シュミレーションをしているのか」「許されるなら新築がいい」「通学の問題もあり地域と一体となった学校づくりが必要」「鳥取小学校を活用するのが良いのでは」「(過去の例で)学校の跡地利用は簡単なことではないので、管理に係る財源確保をしてほしい」「学校の跡地利用は地域ががんばらないと行政はしてくれなかった」「統合した場合、保護者の駐車場も確保する必要がある」「今後どのようなペースで再配置が進むかわからないが、1校にする前に2校でスタートしてはどうか」「既存の校舎も古いのに、教育委員会として何年頃から何年かかってどういう方向で施設整備をして行くんだという方針がないと話が進まない」など。

(久美浜町)

久美浜町への意見としては、「分科会では賛否両論あったが、再配置はやむなしということになった」「お金が無いから新築は無理という話であるなら、意見をいただいた分科会委員さんの納得が得られない」「久美浜は地域が広いことと、人数が少ないという問題があり、広さと人数による基準のようなものはないか」「広いのに1校にして大丈夫か、2～3校で地域性も考えてできないか」「1校案が出ているが、もう少し産んでもらって2校になればいいが」「1校では通学区域が広すぎるし、クラブ活動にも支障が出てくる」「1校になると友達の家遊びに行くにも親が送る等しないといけない」「久美浜は小中一貫校でお願いしたい」「人数、地域、面積等いろんなことで考えるべき」「子どもは子どもたちの中で揉まれて育つ」「不登校の子どもはコミュニケーションのとれない子が多いと思う」「子どもにとって良い環境が作られれば、親も子どものために努力できる」など。

#### 4. 中学校の再配置についての議論

中学校の再配置について交わされた主な意見等は、以下のとおりである。

(峰山町)

中学校は現在1校であることから現状のままとする。

(大宮町)

中学校は現在1校であることから現状のままとする。

(網野町)

網野町への意見としては、「地図上からは塩江地区と磯地区は七竜峠で繋がっているが、冬場は雪のため通行困難。統合となると生徒の移動が心配だが対応はできるのか」「橘地域で小中一貫校は考えられないか」「クラブをする子としない子で帰りの時間が異なる」「久美浜町箱石は網野中学校へ行くよりも久美浜中学校へ行く方が良いのでは」「橘中学校が3学年で60人を切るようなことになると、クラブや学習等に支障が出てくるのではないかなど。

(丹後町)

丹後町への意見としては、「間人中学校は耐震面で危ない、宇川中学校も危ないとなっているが大丈夫なのか」「生徒の少ない中学校は先生の数も少ないので、専門外の教科を教えている場合がある」「自分らしさを出していける子どもを育てるには、ある程度の競争も必要ではないか」「町の中心に中心にという考えではなく、宇川の方を中心にしたまちづくりも考えることはできないか」「丹後町は宇川中学校が5年後の生徒数では成り立たなくなるのではないか」「間人中学校、宇川中学校の両方が土石流の危険地域に指定されているので安全な場所へ新築しての統合をお願いしたい」など。

(弥栄町)

中学校については現在1校であることから現状のままとする。

(久美浜町)

久美浜町への意見としては、「統合するなら町の中心地がやっぱりいいのではないか」「久美浜高校の場所が中心地になるので、久美浜中学校が久美浜高校へ行き、久美浜高校が久美浜中学校へ移動できないか」「特色のある小中一貫校は考えられないか」「寄宿舎とかは考えられないか」「スクールバスは距離も関係するが、実際に家を出てから学校に着くまでの時間も考えないといけない」など。

## 5. 小学校の再配置についての検討結果

小学校の再配置については、各分科会の最終報告を基本とし、尊重しながら熱心に検討を行った。また、それぞれの地域特性やこれまでの経過等を踏まえ全市的な立場から、実現可能な再配置のあり方について、さらに慎重に検討を行った。

(峰山町)

現在の児童数や既存の学校の規模等を考え、当面2～3校として、新築が可能であれば現在の6校を1校に統合する。統合実施時期は、合併特例債を受けられる期間に配慮して進める。

(大宮町)

大宮町は既に統廃合を行っているため、現状では再配置はしない。将来的に現状より児童数が減少した段階で再配置をする。その際、大宮第一小学校は現状どおりとし、第二小学校と第三小学校2校の再配置を検討する。

(網野町)

児童数の減少等による複式学級の問題等を考慮し、現在6校ある小学校の内、当面、橘小学校は現状のとおり存続させる。他の5校の小学校については、2～3校に再配置する。

(丹後町)

竹野小学校は児童数も少ないため、早急に間人小学校又は豊栄小学校へ統合する。その上で、小学校については、間人地区に1校、宇川地区に1校とする。当面は竹野小学校を除く間人小学校、豊栄小学校、宇川小学校の3校を存続させる。

(弥栄町)

現在5校ある小学校を、1校に統合する。鳥取小学校の校舎及び用地を活用する方向で再配置する。

(久美浜町)

児童数を考えていくと、統合はやむを得ないとの意見が大半である。また、久美浜は地域が広いので2～3校で再配置する方がよいと考えられる。

## 6. 中学校の再配置についての検討結果

(峰山町)

現状どおり1校とする。

(大宮町)

現状どおり1校とする。

(網野町)

現在2校ある中学校を存続させる。ただし、橘中学校については、クラブ活動、男女比等も考慮して、1クラスの生徒数が20人を下回るようになった場合は、網野中学校への統合もやむを得ない。

(丹後町)

1校案については、検討分科会では統合・現状維持の両方の意見が均衡しており、どこまでも平行線のままである。宇川中学校は現在生徒数が50人であるが、平成25年には32人となり、教育効果、人間形成等の観点から生徒数は1クラス20名を基準とすると適当な生徒数とは言えず、再配置を計画する。

(弥栄町)

現状どおり1校とする。

(久美浜町)

今後の生徒数の推移や広大な地域性を考えると、当面は現状のままとし、将来的には、可能であれば中心地に統合し1校を新築する。

## 7. 学校再配置の実施に伴って配慮すべき事項

(1) 遠距離通学への配慮

学校再配置によって通学距離が長くなると、精神的、肉体的、経済的に大きな負担を強いることになりかねないため、子どもたちが、京丹後市内のどの地

域に生まれて育っても等しく教育が受けられるよう、通学にかかる保護者の経済的負担を軽くするような措置が望まれる。従って、通学距離や通学の所要時間など一定の整理をしてスクールバス等の運行を充実させる必要がある。また、通学路の安全性を確保するため、道路整備はもとより、道路に付帯する安全施設、歩道、自転車専用道路等の整備にも努めていただくよう要望する。

#### (2) 学校再配置時の子どもたちへの配慮

少人数による固定的な人間関係とならないよう、多くの友だちと交流するなかで葛藤を経験したり、適度な競争意識を持たせるために複式学級がなくなるような再配置を検討する必要がある。また、学校再配置時の児童生徒の精神的負担をできるだけ軽減させ、学校再配置後の学校生活が円滑に送ることができるようにすることが望まれることから、教員配置上の配慮など適切な対応を要望する。

#### (3) 学校再配置に伴う校舎等整備上の配慮

学校再配置に伴う校舎等の整備に際しては、子どもたちにとって学校が一日の大半を過ごす場であることの認識と、子どもたちの主体的な活動を積極的に支援する観点から、また、地域の行事や災害時の避難場所等、まちづくりの核となることから、耐震性の確保、安全や防犯への対応等への配慮が必要である。

さらに、多用な学習形態に対応できるよう高機能かつ多機能で、変化に対応し得る弾力的な環境整備や、特別支援教育の観点等も考慮する必要がある。そして、空間的な余裕や木を多用してぬくもりが感じられ、維持管理も容易であることにも配慮し、後年における学校整備のモデルとなるような施設設備の整備を要望する。

#### (4) 学校再配置に伴う学校跡地の活用

委員会においては、学校の再配置を中心に議論を交わしたところであり、再配置に伴う学校跡地の活用については、学校再配置の方針が固まった後に、改めて京丹後市が地元と協議しながら決定することになると思われる。

学校跡地については、地域の活性化に資するような有効活用を図り、また災害時の地域の避難場所としての機能が失われないよう、地元住民の意向を十分に汲み取りながら跡地の利用計画を作成するよう要望する。

#### (5) 教育予算に対する配慮

委員会では、子どもの健やかな成長にとって、どのような環境が望ましいのかという視点を第一に考えて検討を行った。しかし一方では、京丹後市の財政の厳しさも踏まえ、教育予算の効率的で効果的な使い方について真剣に考えざるを得ない状況であることはよく理解するものである。

しかしながら、子どもたちは京丹後市を担う「宝」である。教育問題は学校だけの問題にとどまらず、家庭や地域とともに、だれもが真剣に対応しなければ

ばならない問題である。その上でも、安全・安心な学校の施設整備は教育の最も基本的な前提条件であり、さらに教職員が力を合わせて思い切った取組みができるように、教育環境の整備については必要な予算措置を含めて、特段の配慮を求めるものである。

#### (6) 学校の存続問題と地域コミュニティへの影響

京丹後市の人口が少しずつ減少し、その傾向になかなか歯止めがかからないにもかかわらず、現時点で、ある程度の児童・生徒数を有する地域等ではそれほど危機感が感じられず、学校再配置の議論が果たして今必要なのかという疑問を持つ方も少なくない。それでもなお、近年の本市における出生数の漸減による人口の減少、とりわけ年少人口の減少は着実に本市の社会生活の各分野に深刻な影響を及ぼしつつある。このため早急に京丹後市の学校再配置のあり方について明確な将来像を描き、的確な対応をとることが不可欠である。もちろん地域の人々の学校に対する深い愛着や思い等、内面的な問題を伴うだけに、学校の再配置は相当対応の難しい問題である。しかし、合併前からの懸案事項でもあり、これ以上先送りすることはできないと考える。

また、現在の学校をそのまま維持したいという多くの市民の声は、地域に支えられると同時に地域の拠り所である学校を失いたくないという思いと、その長い歴史の中で形成されてきたそれぞれの地域特有の文化や、小学校区単位で構成された自治会、婦人会、老人会、子ども会等の様々な組織体制の弱体化、ひいては地域そのものの崩壊につながるのではないかという恐れや危機感が非常に大きいことが背景にあることがうかがえる。

これら地域コミュニティにおける学校を中心とした人と人とのつながり、一体感は、長い歳月にわたり、そこに暮らす人々の様々な地域行事等を通じた交流の積み重ねの上に醸成されてきたものである。学校再配置後は必然的に校区（校下）の広がりを伴うだけに、必要により既存組織の連合体としての位置付けが必要になることも予想されるが、それは本来あくまでもそれぞれの地域における自主的、主体的な協議に委ねられるべきものである。また、学校再配置は、新たな地域の枠組を招来するものであるから、新たな地域づくり、まちづくりの視点から社会教育の積極的な関わりが必要である。

以上、京丹後市教育委員会におかれては、この委員会での検討結果を尊重していただき、将来の京丹後市を担う子どもたちのため、教育効果、人間形成、通学の方法・安全の確保を重視した計画の策定をお願いする。再配置の内容、実施時期等については地域住民、関係機関と十分な協議を行い、理解を得たうえで、小・中一貫教育や中・高一貫教育、また学校選択制度にも配慮した真に特色ある学校づくりに努力していただきたい。

最後に、地域の理解が得られ、地域から歓迎されるような京丹後市らしい学校再配置計画が策定されるようお願いして答申とする。

京丹後市学校再配置検討委員会

委員長	高野 繁一
副委員長	大木 満和
委員	荒田 ケイ
委員	高田 一
委員	松本 慶満
委員	小倉 剛成
委員	坪倉 忠世
委員	板垣 久彌
委員	小松 慶三
委員	増田 明子
委員	本城 昌彦
委員	小牧 良彦
委員	平松 隆夫
委員	河田 和代
委員	谷 良夫
委員	野木 武
委員	平林 洋二
委員	藤原 信雄
委員	西山 茂門
委員	沼倉 恵子